

ソーシャルミックスを志向する「未来の団地」にふさわしい交流拠点の提案です 「人」と「人」との繋がりから生まれる共創に応えて何色にも変化する「つなぐ 紡ぐ おいしい」"場"です。
築45年の前世紀の社会資産を活かしつつ 居住者オンリーでパブリックな「集会所」から 顔の見える地域住民がマネジメントして住民の"しあわせ感"アップに寄与する「交流拠点」にリ・デザインします
全ての住民が"しあわせ"を感じるサステイナブルなコミュニティづくりのための仕掛けの一つ・スタートと考えます

『洋光台』の由来となった「太平洋からの朝日を望む」明るい日々の暮らし 太陽や自然を感じる豊かな日々を彩る 未来につなげる場です。
「みんなの広場」からエレベーターシャフトを利用した敷地中央の塔は 360度の方位でみなさまを誘導してくれます。

◆デザインテーマ <多様なつながりの場をつくる>

人が出会いふれあう多様な「場」	みんなの広場・みんなのガーデン・テラスデッキ・カフェ・集会室 つながりづくりは人が出会う場からスタート。共創的コミュニケーションの場
紡ぐ「豊かさ」を実感できる「可変空間」	みんなのDIYスペース・みんなのキッチン ゲストルーム・屋外アート作品・塔・展覧会 写真展・壁画・光のアート鏡面仕上げに映る景色
安心の拠点	情報の受信・発信基地・E-ラウンジ他 E-ラウンジのコンシェルジュデスクは地域ケアプラザのブランチの取組もできる 地域情報の活発な交流、自主活動グループや新たな取組みの創発で、相互支援も生まれる。
サステイナブル・エコな建物	管理事務所・集会室（使える建物を活かす） みんなのDIYスペース・みんなのキッチン（みんなで良い道具を共有） ソーラーシステム・LED照明・雨水タンク・井戸 自然素材を使ったしつらえ・省エネ、災害時の拠点



なぐ 紡ぐ おいしい！ 交流拠点洋光台北 「たまて箱」

地域の創発（自治）〈マネジメント組織が運営する〉

- I 仮称「洋光台北団地協同組合」の創発で空間を最大限活用する
 - ▶自在に可変する空間のマネジメント（「幸せ感」の最適化）が必要
 - ・総会や講演会などに使う大会議室は 日常は細分化して活用する
 - 「みんなのキッチン」を中心に オープンカフェ、食事会、住民の自主活動グループ（自主保育や学童保育等）の取組みに活用
 - ・情報の受信・発信は多くの人に活用してもらうための最大課題
コンシェルジュ機能 インターネットのインフラ整備 紙媒体が必要。
 - ▶仮称「洋光台北団地協同組合」とは?
 - ・「たまて箱」を独立経営できるマネジメント組織
 - ・非営利で可変型にふさわしい多様な取組みを展開するため 協同組合方式を想定する
 - ・「この指止まれ」方式で 誰もが参画できる開かれた組織で
経営とまちづくりを両立させる組織とする
 - II 既存の自治組織・UR管理事務所とは役割分担して連携する
 - ▶マネジメント組織が自主管理する
 - UR管理事務所とは役割分担をしつつも 連携した取組を展開

